

令和元年度公立高等学校みやぎ学力状況調査の結果について

1 目的	生徒の学力状況と学習、生活、「志教育」に関する意識等について調査分析し、各学校における学習指導の取組、本県の学力向上施策の改善に役立てる。
2 調査項目	教科に関する調査（国語、数学、英語）： 2学年 質問紙調査： 1・2学年
3 調査対象	公立（県立、仙台市立、石巻市立）高校1年生14,160人、2年生14,096人
4 実施期間	令和元年7月1日（月）～7月8日（月）

※（ ）内は前年度の正答率

5 学力状況調査結果の主な特徴（2学年）		共通問題正答率
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言語事項では、言語に関する基礎的・基本的な知識の定着が不十分である。 現代文では、文章全体の構成や展開を的確に捉えて読む力、表現の特色や工夫に注意して読む力が不足している。 古典では、基礎的・基本的な知識を活用して、内容を的確に読み取る力が不足している。 	53.6 (56.0)
数学	<ul style="list-style-type: none"> 分野によって定義や用語、公式の利活用の定着にばらつきがある。また、知識を問題に活用する力が不十分である。 問題の条件や情報を整理し、数学的な見方や考え方を働かせながら考察する力が不足している。 条件を正しく読み取り、それらを公式や定理と関連させながら、数学的に表現・処理する力が不十分である。 	41.6 (41.7)
英語	<ul style="list-style-type: none"> 会話やスピーチなどを聞き、場面や状況を的確に把握する力、情報を整理する力が不足している。 基本的な語彙表現の理解や定着は見られるが、高校で学習する文法、語彙、表現については、理解が十分ではない。 部分的な資料の読取はできているが、全体の要旨をまとめる力、語彙や表現を推測して読み進めることに課題がある。 	52.6 (47.3)

6 学習状況調査結果の主な特徴（1学年・2学年）	
学習	<ul style="list-style-type: none"> ○平日に1日2時間以上学習する生徒の割合は、1学年で18.6%（前年比+0.4%）、2学年で12.4%（前年比-1.3%）程度である。 ○授業の内容を「ほとんど理解できる」「理解できる授業の方が多い」と考える生徒は徐々に増加している。1学年59.2%（前年比+1.8%）、2学年52.3%（前年比+0.5%） ○学習目標の提示や振り返りが行われている授業ほど、生徒の授業理解度が高い傾向にある。 ○家庭学習での悩みとして「集中できない」と回答した割合が最も多い。そのうちの約40%が平日最も時間をかけていることとして、スマートフォン等でのゲームやインターネットを挙げている。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣や体調管理について、75%以上の生徒が安定的な生活を送っている。 ○1学年では80%、2学年では73%程度の生徒が、学校生活に充実感や満足感を感じている。 ○集中して勉強できていると回答した生徒は、1学年で66%、2学年で58%程度である。心配事があり学校生活に集中できないと回答した生徒は、1学年で17%、2学年で19%程度である。
志教育	<ul style="list-style-type: none"> ○「志教育」の3つの視点に関する意識については、概ね良好な状況である。 ○「自分の個性や適性が分かっている」と肯定的に回答したのは70%程度である。 ○90%程度の生徒が、自分の役割に責任を持って行動していると回答した。

7 学力向上に向けた今後の取組			
各学校	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善の推進 ○家庭学習時間の確保 ○「志教育」の推進、多様な学習機会の提供 ○家庭と学校との連携 	県教委	<ul style="list-style-type: none"> ○全県的な学力傾向の把握 ○学力向上施策の推進 ○教員の資質向上 ○新学習指導要領の趣旨の周知